



都市計画区域マスタープランの改定について

群馬県都市計画課 都市計画係

群馬県が改定を進めている「都市計画区域マスタープラン」についてご紹介します。

○「都市計画区域マスタープラン」とは何か？

県が、将来の都市づくり(まちづくり)の基本的な方針について定める計画で、概ね20年後(平成42年)の人口などの社会情勢を見据えた上で、10年後の都市の将来像を記載します。

(記載内容)

- ・都市計画の目標(基準年：平成22年、目標年次：平成32年)
- ・区域区分(市街化区域・市街化調整区域)の有無
- ・主要な都市計画の方針など

○どんな役割があるのか？

「都市計画区域マスタープラン」に即して以下のことを決定します。

- ①市町村が策定する「都市計画マスタープラン」
- ②県や市町村が定める都市計画
 - ・土地利用(市街化区域・用途地域・地区計画など)
 - ・都市施設(道路・公園・下水道など)
 - ・市街地開発事業(土地区画整理事業・工業団地造成事業など)

○今までのマスタープランとは何が違うのか？

「持続可能なまちづくり」への転換を図るため、主に以下の3点を変更します。

①「個別の都市計画区域」から「広域区域」へ

将来像実現に向けて、まちづくりの転換を図るためには、市町村や都市計画区域の枠組みを超えた、より「広域的な区域」でまちづくりを行うことが必要です。

そこで、従来は県内に34ある都市計画区域毎に作成していたマスタープランを、経済圏や生活圏が同じである「4つの広域都市計画圏」にまとめて策定します。

②「部分最適」から「全体最適」へ

「都市の将来像」を実現するためには、従来の個別課題への対応だけではなく、まち全体で不都合な部分が生じないように調整を図ることが必要です。

そこで、「まちのまとまり※」を維持するために、次の方針等を明記します。

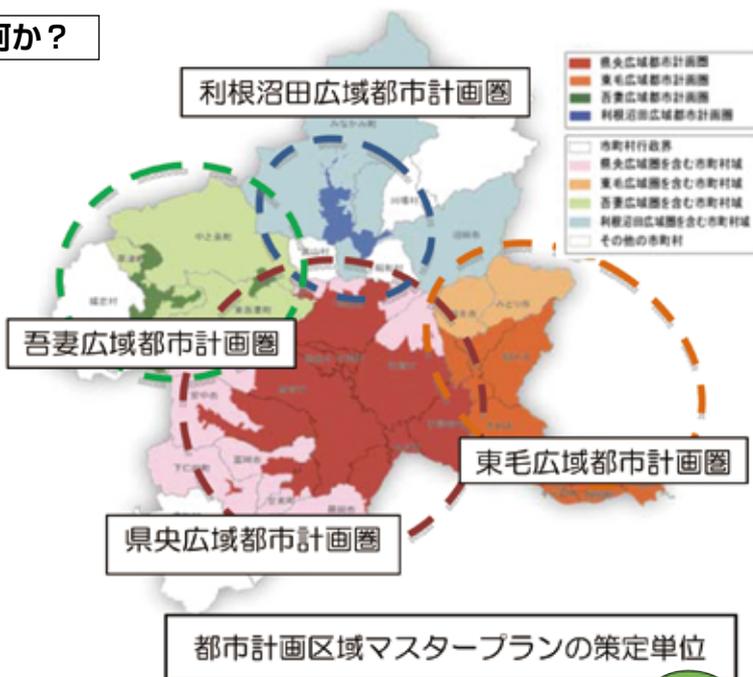
- ・住宅地は、「まちのまとまり」等に立地誘導し、郊外では新たな開発を原則抑制する。
- ・商業地は、鉄道やバスを利用して多くの人が集まりやすい拠点への一層の集積を図る。
郊外での大型商業用地の新たな設定は、原則、抑制するが、まち全体で不都合が生じないように、広域的な観点から、既存の商業に影響を及ぼさないことが整理された場合のみ、設定することができる。
- ・工業地、流通業務地は、高速道路インターチェンジ、国道等の幹線道路の結節点周辺の拠点に配置する。

※「まちのまとまり」とは、中心市街地や合併前役場周辺、既存集落などを想定しています。

③「まちのまとまり」同士の機能相互補完を明確化

今後、単独の「まちのまとまり」では、都市機能が維持できなくなる恐れがあることから、「まちのまとまり」間で機能を連携していくことが必要です。

そのため、「まとまりの役割」・「まとまり同士をつなぐ連携軸の役割」を明確にします。



○まちづくりをどのように転換し、どのような都市構造を目指すのか

群馬県におけるまちづくりの課題を解決し、「ぐんまらしい持続可能なまち」を実現していくために、次の「3つの視点」が重要であると考えています。

	視点①	視点②	視点③
これまで	市街地の拡大、施設や人口の分散を容認するまちづくり	自動車中心の生活スタイルに合わせた交通網の整備	県内各都市が機能を競い合うまちづくり
これから	まちのまとまりを保持するまちづくりへ	道路ネットワークと公共交通との連携を重視するまちづくりへ	各都市の特徴を活かして総力戦で人やモノを誘致するまちづくりへ
どのように	公共交通を核として、まちのまとまりが明確で、メリハリの効いた市街地へ	まちのまとまり間で移動手段が多様に確保された移動環境へ	産業・観光・バックアップ機能などそれぞれが特徴を持つ都市の連合体へ
目指すべき都市構造	まちのまとまりが明確で公共交通が成り立つ市街地	まち単独で担いきれない機能を周辺のまちと連携して相互に補完できる多様な交通手段を確保できる都市	複数の都市が一つの都市として連携する都市群
イメージ	<p>①今ある「まちのまとまり」周辺の集積の保持</p>	<p>②「まちのまとまり」間での鉄道等を活用した機能の連携・補完</p>	<p>③対外競争力を持つ産業の広域交通沿線への集積</p>

○見直しの背景

- ・群馬県では、人口減少や超高齢社会が急速に進行していて、このままでは高齢者の住みにくい、社会保障費が多額に必要な県土が形成されることが予測されています。
- ・そこで、県では「人口増加時代のまちづくり」から「人口減少局面でもぐんまらしい持続可能なまちづくり」へと、徐々に転換を図っていきます。

【これまで】人口増加時代のまちづくり

- 人口増加を前提に都市を拡大
- 自動車中心の生活に対応した郊外開発
- 各都市が単独で多くの機能を保有



実現に向けてまちづくりの転換が必要

【これから】人口減少時代のまちづくり

- 人口減少を前提とした公共交通や都市施設の再構築
- 魅力的な「まちのまとまり」づくり
- 多様な交通手段と利便性の確保
- ぐんまの強みを活かした産業の誘致等

